これからのASBJの活動に期待する

関西産業界からの期待

公益社団法人 関西経済連合会　理事　藤原（ふじわら） 幸則（ゆきのり）

企業会計基準委員会（ASBJ）におかれましては、このたび設立10周年を迎えられましたことに心よりお慶び申し上げます。日本の会計基準設定主体として、会計基準の調査研究や開発、会計基準の国際化への対応などに大変尽力されてこられたことに改めて敬意を表する次第であります。

会計制度は、投資家等への情報開示のみならず、企業の経営判断や事業活動のベースとなり、成長のエンジンとなる企業の持続的発展に欠かせないものであります。さらに、資本市場の国際化や企業の事業活動のグローバル化がますます進む中で、国際的な企業業績の比較可能性や透明性の確保が強く求められるようになってきております。

こうした会計制度をめぐっては、わが国では、近年、大きな変化が生じております。2008年度には、金融商品取引法の施行に伴い、四半期決算や内部統制についての報告が義務化されました。また、決算制度の前提となる会計基準について、世界の多くの国で導入・適用が進む国際会計基準（IFRS）へのコンバージェンスが逐次進められています。

こうした一連の制度改正は、企業の統治機能を高めるとともに、経営状況を的確に把握し、それを投資家に適切に開示していくことを促す取組みであります。しかし一方で、企業としては、報告書作成への費用と労力の負担が高まることになります。今後、会計基準の国際化が避けられない中で、これと密接に関連する財務報告にかかわる開示制度については、企業の経営や投資家に与える影響を見極めながら、関係者の利用価値と作成コストの適切なバランスの観点から不断に見直していくことが不可欠であると考えます。

四半期決算の開示制度につきましては、関西経済連合会では、作成者の企業や投資家へのヒアリング調査なども踏まえて、2009年7月に「四半期決算報告制度に関する意見」を関西経済同友会・大阪商工会議所・京都商工会議所・神戸商工会議所との連名により、金融庁・東京証券取引所などの関係方面に要望を行ったところです。意見書では、企業と投資家にとってバランスのとれた合理的な制度構築をめざすべきという観点から、四半期決算報告制度の大幅な簡素化を強く求めておりました。

ASBJでは、政府の方針や経済界の要望を受けて、金融商品取引法にもとづく四半期報告制度に適用される会計基準につきまして2010年9月から本格的な見直し検討を進められ、2011年3月25日に改正基準を公表されました。関西経済連合会をはじめ、経済界の意見要望を適切に集約され、第1四半期および第3四半期につきまして、大幅な簡素化を図られたことは高

く評価できるものです。

また、IFRS のわが国への導入につきましては、世界に開かれた資本市場のインフラ整備や企業のグローバルな事業展開、資金調達にとって有益なものとなります。中国・韓国などの近隣アジア諸国は、国益や経済発展を支えるインフラとして、会計制度の国際化を急速に進めており、わが国としても企業の国際競争力の維持・強化のためにも、IFRS への対応は不可避といえます。が、会計制度はそもそも会社あってのものであります。国際的な会計ルールの変更が日本の企業経営や経済成長・産業育成の支障とならないよう、国際会計のルールづくりにおける日本の発言力を強化していくことが重要であります。それとともに、IFRS の導入は、従来の会計基準からは大きな転換となるものであり、震災後の日本経済や企業経営の状況も斟酌し、円滑な導入に向けて様々な対策が必要であると考えます。

ASBJ へ期待することを二つ申し上げたいと思います。第一に、国際会計基準審議会（IASB）への日本の意見発信機能を強化するため、ASBJ には関西など地方も含めた国内企業の意見集約により一層努めていただきたいと思います。日本が IASB の重要なパートナーとして関係を強化し、常に最新の動向を把握するとともに、日本の意見が的確に反映されるようになることが重要です。

第二に、ASBJ には、IFRS の適用に関する啓発活動、広報活動を企業の幅広い層を対象に、関西など地方も含めて、より積極的に進めていただきたいと思います。IFRS の適用は開示だけが目的ではなく、経営そのもののベースとなるものであり、会社の幅広い部門が関係し、目的の共有化や納得性が重要となります。また、ある程度共通した会計処理がある業界ごとに研修会などを開催し、欧州の先行事例の研究・討論などを実施することも有効かと思います。こういった多面的な啓発活動、広報活動の展開におきまして、ASBJ が果たす役割は大なるものと考えます。

企業活動を支える会計制度のより良い発展に向けまして、ASBJ には、今後、さらなる活躍と貢献を期待してやみません。